



ゴルフ場・業界が志向する 今後の運営、リモートの可能性？

新たな3密避ける
ポスターも

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をお願いします

3つの密を避けるための手引き!

- 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、咳エチケット、手指衛生等に加え、「3つの密(密閉・密集・密接)」を避けてください。
- 3つの密が重ならない場合でも、リスクを低減するため、できる限り「ゼロ密」を目指しましょう。
- 屋外でも、密集・密接には、要注意。人混みに近づいたり、大きな声で話しかけることなどは避けましょう。

0120-565653

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をお願いします

「密閉」「密集」「密接」しない!

●「ゼロ密」を目指しましょう。屋外でも、密集・密接には、要注意!

<p>他の人と十分な距離を取る!</p>	<p>窓やドアを開けこまめに換気を!</p>
<p>密閉でも換気するよう密閉は避けましょう! - 密閉空間で換気扇を回す - 密閉空間で換気扇を回す</p>	<p>会話やエレベーターではマスクをしましょう! - 会話やエレベーターではマスクをしましょう! - 会話やエレベーターではマスクをしましょう!</p>

0120-565653

収容率50%の日常化

やっとな、日本でも新型コロナウイルス感染症の新規感染者が少なくなり、全国的な緊急事態宣言が解除となった。

8割削減を目指す外出自粛要請はなくなつたが、恒常的に収容率50%以下の基準が設けられ、引き続き感染症対策に留意しながら、止まっていた経済活動、イベントも動き出すことになった。

今回は「コロナを越えて」と題して、1週間以内に2回のアンケートを実施した。ゴルフ場だけでなく、ゴルフ場でもある取引先、会員権取引会社の協力も得て、これからのゴルフ場ビジネスを探ることとした。

ゴルフ場業界の対策ガイドライン 緊急事態が全国的に解除

5月25日に安倍晋三首相が全国の緊急事態宣言の解除を表明、第一波の感染対策を一旦終了することとなった。

政府は第二波、第三波の感染拡大を防ぐべく、人の行動制限を段階的に解除する方針で、外出自粛は緊急事態宣言時ほど求めないものの、リモートでの働き方など新しい生活様式での活動を推奨し、

クラスターなど集団感染が発生した業種では活動の解除に慎重な姿勢を示した。

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部では活動再開にあつたの目安を公開した。都道府県はこれをもとに感染状況などから約3週間毎に基準を見直し、6月19日からプロスポーツの無観客試合などを容認することとした。

また方針では、都道府県をまたぐ移動は6月1日から容認するが、5月25日に緊急事態を解除した東京、神奈川、埼玉、千葉の関東4都県や北海道との往来は6月18日まで控えるよう求めた。

さらに観光は都道府県内なら5月25日、都道府県外へは6月19日から徐々に再開し、8月1日から全面再開することとした。

イベントの開催目安については、5月25日からはステップ①として屋内収容率50%以内と上限100人、屋外は十分な間隔(できれば2メートル)と上限200人が目安、6月19日からのステップ②からは屋内収容率50%以内は同じで上限人数は屋内・屋外とも上限1000人、7月10日からのステップ③は同様に上限5000人、こ

イベント開催・外出制限等の段階的緩和の目安

	ステップ	イベント					国の外出自粛・観光・東京都のステップ						
		収容率		上限人数(人)		プロスポーツ等	お祭り・野外フェス	国	外出自粛	観光	ステップ	東京都	外出・営業自粛等
		屋内	屋外	屋内	屋外								
5/25~	移行期間	50%以内	十分な間隔	100	200	(全国的な移動を伴うもの) ×	全国・広域は×。地域の行事は特定の地域からの来場を見込み、人数を管理できるものは基準内で△	△これまで同様に不要不急の県をまたく移動は避ける	△観光振興は県内で徐々に、人との間隔は確保	①	他県への移動の自粛	学校再開(分散登校等)。運動施設の観客席部分は使用停止	
6/1~								○解除。5都道県との移動は慎重に		②	他県への不要不急の移動自粛6/18まで	観客席部分も使用可。多くの商業施設の営業自粛解除。飲食店は引続き夜10時まで	
6/19~								○無観客		△県外含む観光は徐々に	③	外出自粛解除。国と同じ	飲食店夜12時まで。遊興施設等も可。一部施設は国の方針踏まえ検討
7/10~								○基準内					
8/1~	④	上限なし	上限なし	○50%	△	○移動は全面解除	○						

注：収容率と人数制限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）。屋外の十分な間隔（できれば2メートル）。イベント主催者等は「業種別ガイドライン」等に基づく行動。5月25日感染症対策会議（内閣官房HP）と都の発表から作成。

れら移行期間後に感染状況をみつつ、8月1日を目前に上限人数を設けずに解禁する。

これを受けて都道府県が活動再開のスケジュールを具体的に示すことになったが、神奈川県は即座に国の方針から制限を解除する一方、5月22日に4段階のロードマップを発表した東京都は独自に段階的な解除を示唆。解除明けの5月26日には8割の接触削減を目標とした外出自粛等を要請していたステップ0から、外出時の「新たな日常」を徹底するステップ1に緩和し、飲食店の営業を従来の夜8時から夜10時まで一部緩和。そして6月1日からステップ2に移行し、一部を除き多くの商業施設が本格営業を再開した。

イベントやクラスタ発生歴のある業種な

どの本格再開は政府が6月18日に取りまとめる評価次第で緩和する方針で、イベントの10000人規模までの緩和や他県への不要不急の移動の自粛は、国と同じく6月19日から緩和される見込みとなった。

これでゴルフ場も、営業自粛や制限した運営から、日本ゴルフ場経営者協会などが示したガイドラインを参考に、通常営業に向けての運営見直しが始まった。

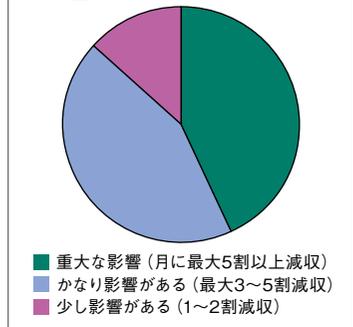
本誌の「コロナを越えて」アンケート

本誌の「コロナを越えて」アンケートは、5月14日に39県の緊急事態が解除され、5月中には全国的に解除される見込みとなったことから5月15日より緊急的に実施した。

アンケートはgoogleフォームで作成してゴルフ場など業界関係者にメールを配信、webで回答してもらった形式で行い、1回目は160件以上の回答が集まった。

まず、5月以前のコロナの影響度合いを尋ねると、①重大な影響（月に最大5割以上減収）が41・4%、②かなり影響がある（最大3

新型コロナの影響について



5割減収）が43・8%で拮抗し、合わせて85・2%が3割以上のかかりの影響を感じ、③少し影響がある13・0%、④あまり影響がない1・9%であった。

業種別ではゴルフ場122件（100コース以上運営するグループ本社も1件でカウント）、ゴルフ場取引先・資材販売等16件、ゴルフ会員権取引会社18件等に分類でき、業種毎に回答に違いが出た。

ゴルフ場の回答比率は①43・4%、②50・0%で、③少し影響がある（1~2割減収）は6・6%に過ぎず、④あまり影響ないはゼロだった。

ゴルフ場取引先・資材販売等は①6・3%、②12・5%、③68・8%で、④が12・5%と最も影響

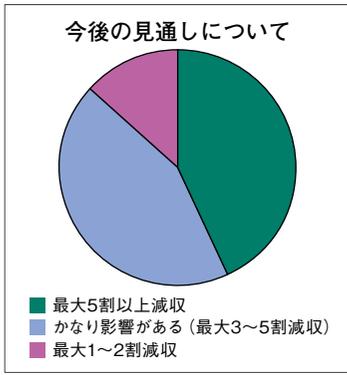
が少なかった。

会員権取引会社では①66・7%、②22・2%、③と④は5・6%ずつで業種別では一番影響が大きかった。

ここで4月の影響度合いを尋ねた前回(本誌6月号)を振り返ると、ゴルフ場だけで①32%、②37・8%で、3割以上の減少が4月の7割から5月は9割以上に悪化しており、影響度合いは5月の方が深刻となった。

次に今後(6月)の売上見通しについては、ゴルフ場の回答比率は①37・7%、②54・1%、③7・4%となった。

ゴルフ場取引先・資材販売等は①18・8%、②31・3%、③50・0%。会員権取引会社では①38・9%、②44・4%、③11・1%な



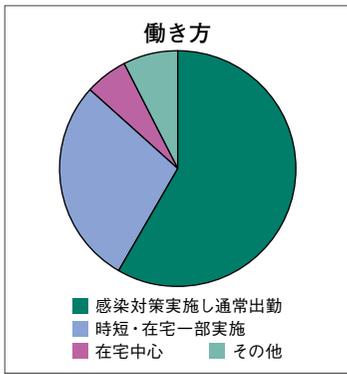
どとなった。

5月までと比べゴルフ場や会員権取引会社では、ゴルフファーが動くことで業績も回復すると見込んでいるようだ。

ゴルフ場取引先・資材販売等にあっては4月、5月にゴルフ場の売上が落ち込んだ影響が今後出ると予想したのかも知れない。

3~5月にかけてコロナ予防対策費や売上の減少など資金面が逼迫したこと、補助金の支給や融資が受けられずとも7月以降など時間がかかりそうで、設備投資まで回るのはゴルフ場の売上が回復するまで難しいとの判断でもあろう。

5月14日までの働き方について聞いてみると、①感染対策を実施し通常出勤が58%で半数を超え、



②時短・在宅一部実施は28・4%、③在宅中心は5・6%だった。

業種別では、ゴルフ場の回答比率は①70・5%、②20・5%で、③単独の回答はなかった。ゴルフ場取引先・資材販売等は①23・1%、②46・2%、③53・8%。会員権取引会社では①16・7%、②72・2%、③22・2%などとなった。

ゴルフ場は①が目立ち、②はゴルフ場取引先・資材販売等と会員権取引会社が多かったが、ゴルフ場取引先・資材販売等では③の在宅中心も半数以上とくっきり分れた。

ゴルフ場取引先、ゴルフ会員権取引会社も東京都に集中しており、商店でもないだけに②や③が多いが、③の在宅の大小は主に業態の特性と思われる。

ゴルフ業界では、在宅中心の業種ほどコロナの影響は受けておらず、逆に今後の施策で在宅、リモートビジネスが不可欠だとしたら、現在の働き方を変えていく必要がある

るのだろう。

次に外出自粛解除後の取組みについて尋ねたが、①在宅・リモート活動を増やすは14・2%、②徐々に元の働き方に戻す74・7%、③新しいビジネスを考える14・8%、④資金面を確保32・1%。

特に在宅・リモート活動を増やすの回答はゴルフ場4・8%、ゴルフ会員権取引会社11・1%と低いのに対して、ゴルフ場取引先・資材販売等では75%と極めて高い。また②徐々に元の働き方に戻すはゴルフ場74・4%、ゴルフ会員権取引会社88・9%と保守的で、ゴルフ場取引先・資材販売等では15

【新たな戦略】 コメント

- ・専門職を持っている企業とのコラボ。
- ・ゴルフ場施設の他の目的利用化
- ・今までのプレススタイルと、スループレーとのハイブリッド的な運営形態をとる。
- ・必要でないものを削除していく事
- ・入場制限、宅配サービスの拡充
- ・オリジナルグッズの販売等
- ・コース課などは管理面積を減らし作業時間短縮、肥料等の削減
- ・ローンの活用事業、インバウンド旅行社
- ・コース、ハウスを違う用途に活用する。
- ・BBQ/カフェ利用、保育園、キャンプ、ドローンスクール、街コン、サッカー場、アート・イン・レジデンス等
- ・ゴルフ場施設の他の目的利用化
- ・新しい運営スタイルの構築
- ・1ラウンドスループレーの取り入れ
- ・平日のみスループレーまたは、1コースのみスループレーなど
- ・エネルギー関係
- ・主力商品以外の収入確保
- ・誘客のための全県下一斉のキャンペーン企画

・4%しかなかった。
 ④の資金面の確保ではゴルフ場32・8%、ゴルフ場取引先・資材販売等31・3%、ゴルフ会員権取引会社32・1%と差がなかった。
 この働き方で注目されるのが、ゴルフ場取引先・資材販売会社だ。最もコロナによる売上減少の度合いが少なく、しかも在宅中心の働き方だった。
 ③新しいビジネスを考えるゴルフ場コメントは22頁の通り。目的外の利用やドローン活用が複数あ

【ゴルフ団体のコロナ対策ガイドライン】

ゴルフ場等のコロナ対策についての感想/コメント

- ・3密の回避を念頭に対応を実施。
- ・安定化二酸化塩素による除菌は量/空間体積?の基準は?その場合換気しないほうが良いのか?
- ・従業員のマスク着用義務・毎日の検温
- ・当県は休業要請が出て、休業組と営業組に分かれて顧客に説明が大変でした。
- ・R&AとUSGAのコロナウイルス対策指針の項目を全て実施できるゴルフ場って…。
- ・政府からの指示が曖昧過ぎる
- ・一般的に行われている対策は全て実施中だが、今後今までの運営スタイルへ戻れるのか、いつ戻すべきかなど不安や不透明感はある
- ・国の方針、県の方針を注視しながら、県外からの来場の断りを徐々に緩和していく。
- ・症状のない感染者がいる前提で対策することが必要。
- ・出来る限りのやれる事はやっています。これ以上無理ですね。
- ・やれる限りの事はやっています。これ以上は無理ですね。
- ・過度の対策は、現状復帰を難しくすると感じる。
- ・感染対策はできるところは徹底して行っています。
- ・過剰に対策せず、必要最低限で、食事やお風呂の利用はお客様の選択で良いと思う。
- ・3密、手洗い、うがいの徹底。健康管理の徹底
- ・入場時の除菌
- ・スループレー中、売店も閉まっており飲料水がプレー中購入出来なく困った。これから熱中症も心配。
- ・スループレーの導入、もしくは、レストランのテーブル配置などの工夫
- ・出来ることは全て行った
- ・情報共有に支配人会のネットワークが有効に機能している。
- ・今はお風呂を使用中止にしているが脱衣場の配置や窓がない更衣室の対応で悩んでいる
- ・非常事態宣言下に共通する明確なガイドラインがどこからも出なかった。
- ・細かい部分まで規定されており分かり易いです
- ・従業員と来場するお客様の安全確保=衛生面（マスク着用・消毒剤の設置）
- ・対策にかかる費用、収益の低下をどうするのが課題
- ・施設内でのマスク着用励行、施設及びカートの消毒
- ・今の対応で良いと思う
- ・他県からの来場者へ入場制限を掛けた方が良い
- ・1、消毒2受付その後の動きの間に、消毒を、頻繁にしか、ないですよ。
- ・お風呂をシャワーのみ、スループレーなど適切な対応だと思います。
- ・県内の地域(市場) 性の違いで、若干対応の考え方に相違が生じる
- ・米英では、業界団体が率先して作るが日本は受動的、アリバイ的
- ・各エリアの各ゴルフ場で出来得る限りの対策を練って頑張っていると感じ入ります。
- ・スループレーの義務化
- ・レストランナシ、ロッカー、ふるナシ、スループレー
- ・検温、マスク着用、アルコール備え置き、レストラン・浴室使用中止、ロッカー希望者のみ貸出等
- ・クラブハウス内設備の利用制限方法について、もう少し具体的な対応方法を示して欲しい。
- ・ゴルフ場のガイドラインを参考にさせていただきました。
- ・出来る対策は、全て実施し感染者を出さないよう対策を講じている
- ・大変参考になる、できることはすべて実施する予定。

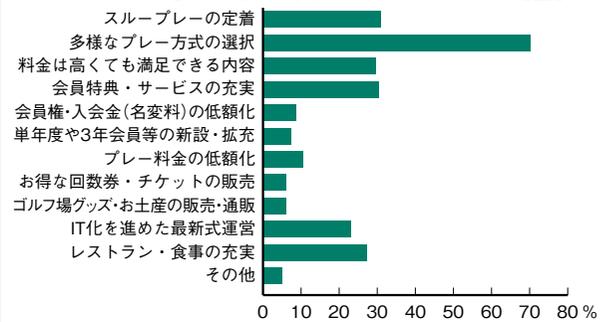
**ゴルフ場の今後の取組み
多様なプレー方式が圧倒的**

つたが、まだ主流ではない感じ。断捨離と言われる「必要でないものを削除していく事」も経営戦略として、「あり」だろう。
 ゴルフ場には今後、どんな取り組みを検討したいか?またゴルフファーでもある取引会社、会員権取引会社はゴルフ場に何を望むかを尋ねた。
 回答の選択肢はその他を含め12

個を用意した。

その結果は、②多様なプレー方式の選択が70・2%で最も回答を集めた。次は①スループレーの定着が31・2%となり、④会員特典・サービスの充実30・4%、⑪レストラン・食事の充実27・3%、③料金は高くても満足できる内容25・5%と20%以上で続き、⑦プレー料金の低額化10・6%、⑥単年度や3年会員等の新設・拡充8・7%、⑤会員権・入会金(名変料)の低額化7・5%、⑧お得な

ゴルフ場は今後の何を検討したいか?またゴルフファーはゴルフ場に何を望むか?



回数券・チケットの販売と、⑨ゴルフ場グッズ・お土産の販売・通販が6・2%、⑩その他5・0%であった。
 回答業種別で回答比率が高いのは回答数が多かった順に②多様なプレー方式の選択と、①スループレーの定着で、取引会社やその他業種がやや高く、ゴルフ場はそれぞれ②52・8%、①19・9%で平均をやや下回る。④会員特典・サービスの充実ではその他販売会社や会員権取引業、ゴルフ場がやや

高く、取引会社等は低い。

③料金は高くても満足できる内容は件数が少ないながらも販売会社が高く、ゴルフ場はその次に多く、その他の業者は低かった。⑪レストラン・食事の充実は件数が少ないながらその他業種で高く、ゴルフ場の3割以上が選択して志向性が高かった。⑩IT化を進めた最新式運営は⑪と同じ傾向となった。

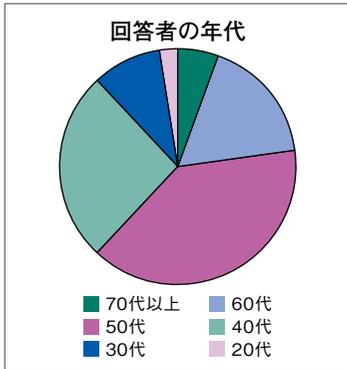
これら回答を見ていくと、ゴルフ場・ゴルフファーである取引先等も多様なプレー方式の選択を志向していることがわかる。コロナ拡大期に半数のゴルフ場で導入していた①スループレーに関してはゴルフ場の26・2%しか選択していないので、元の食事付きプレーに半数近くが戻る可能性があることがわかる。このため⑪レストラン・食事の充実もゴルフ場がより多く考えている。

一方で、取引会社等がゴルフファーとして考えると、50%の人がスループレーの定着を選択しており、ゴルフ場が考えている以上にスループレー比率が高い。むしろコロナ拡大期に半数のゴルフ場で導入していたスループレーが必要に見

合った姿だったのかも知れない。⑩IT化を進めた最新式運営も高い。

少し異なる傾向だったのが会員権取引会社で、②多様なプレー方式の選択とともに、④会員特典・サービスの充実や⑤会員権・入金（名変料）の低額化を半数の会社で選択、しかも①スループレーの定着や⑦プレー料金の低額化も平均より高いという多様性があった。

ゴルフ場と、その取引先などの志向は重なる場所もあれば、離れている面もある。ゴルフ場が食事付き中心のスルーを一部取り入れた多様なプレー方を考えていて、一方の取引会社などはスループレーを中心しつつも、時には食事を楽しむエンジョイプレーも

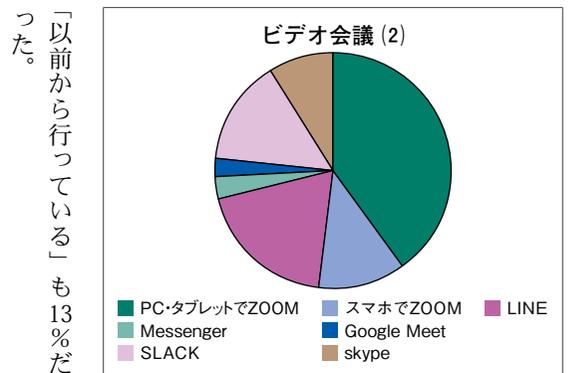
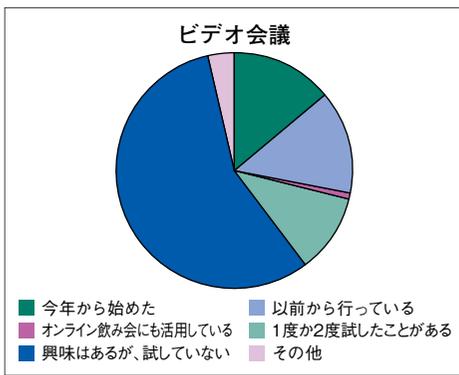


楽しむような配分になっているかも知れない。単純にゴルフファーは「選択させて」の願望があるに違いない。

ここで、これまでの新型コロナウイルス対策について自由記述方式でコメントを記入していただいたので紹介したい。

「コロナを越えて」のサブテーマはリモートビジネス。アンケートでは会議やセミナー・研修会をPC・スマホのビデオで取り組むケースが増えているため、ビデオ会議経験などについて尋ねた。

答えは半数以上の52・2%の方が「興味はあるが試していない」で、「今年から始めた」は13%で、



「以前から行っている」も13%だった。

在宅の人とのビデオ会議もインターネット環境があつて、メールのやり取りができれば無料ですぐ始められる。今後、業界の情報交換が時間や距離の不利なく、始められれば大きな進歩で、コロナなど危機情報は共有してこそ、価値が高まる。

実際、関西のゴルフ場の方とビデオ会議を初めてさせていただいた時も、「あつ、パソコンに私が写っている」と驚いていたが、今のスマホやPCの大半がビデオ、テレビ通話ができるようになってきているので、YouTube、Instagramで

の生放送も簡単にできるそうだ。

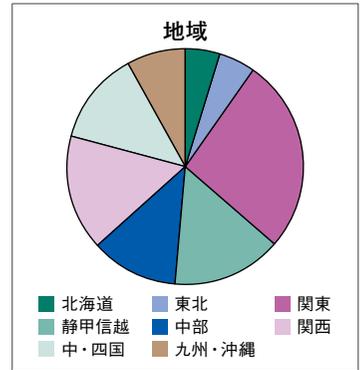
Zoomの利用者はコロナの影響もあって今年、世界で3億人を超えたそうで、リモートの利用者は今後も増えて、ゴルフ場のお客様もリモート利用者になっていく。学校でも必須アイテムとなつてきて、ゴルフ場は現場サービス、作業がほとんどだからリモートは無縁というのは少し昔の話。使わない手がない便利なツールで、ビジネスに必至となつているばかりか、映像を手軽に撮影してネット配信できるので、ゴルフレッスンだけでなく新たなビジネスも生まれている。

本誌でもゴルフ業界の情報交換を高め、ネットワークゴルフビジネスの市場性を探り、高めていきたいので、webアンケートなどを今後ご協力お願いします。

「コロナを越えて2」

「コロナを越えて2」のアンケートは間を開けずに行った。

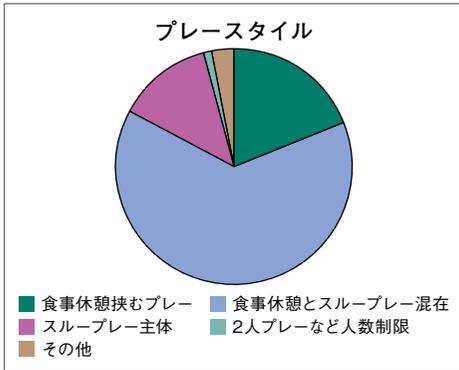
1のアンケートで、感染拡大防止対策に不安があり、地域のモデルや他のコースの動向を知りたいという意見が多かったため急遽実施。1のアンケートの配信の3日



後には配信し、2のアンケートも100件近い回答があった。

地域毎で見ると、2の回答は1の時よりもコロナに関心の高い関東の比率が4分の1を占めるなど高くなった。

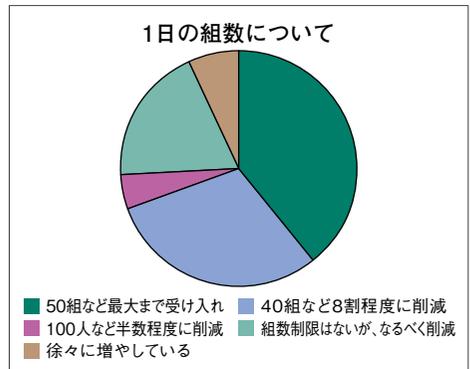
そして6月からのプレースタイル



ルは②食事休憩とスループレー混在が64%で過半数以上を占め、①食事休憩挟むプレー19%、③スループレー主体13%となった。明らかにコロナ拡大期よりもスループレー主体が減り、②食事休憩とスループレー混在が増えた。

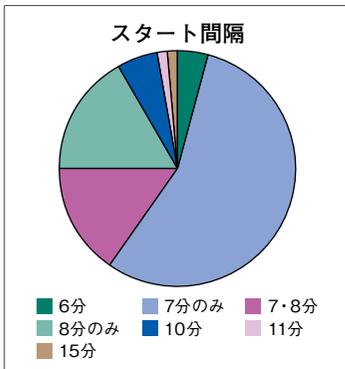
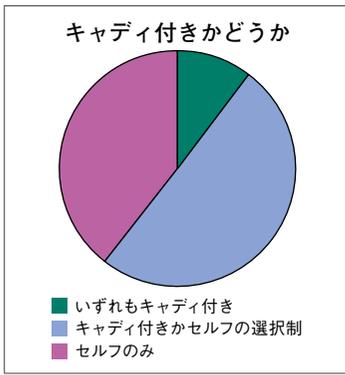
それと②キャディ付きセルフの選択制が50・5%を占め過半数となり、③セルフのみ39・2%、①いずれもキャディ付き10・3%と通常に戻りつつある。

1日の組数については、①50組など最大まで受け入れが39・3%で通常期に戻っている。②40組など8割程度に削減も30・3%あり、④組数制限はないが、なるべく削減19・1%、⑤徐々に増やしている6・7%、③100人など半数程度に削減4・5%で、人数を抑



える意識は残っている。

選択式で答えていただいたスタート間隔は、②7〜8分間隔85・6%で圧倒的。記述式で分けると、7分のみ55・6%、8分のみ16・7%、7分と8分の混在15・6%、10分5・6%、6分4・2%、11

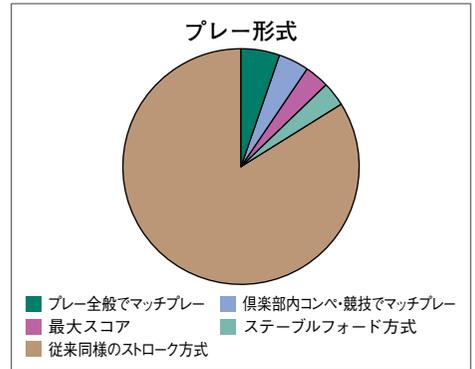


分と15分が1・4%だった。

JGAがスタート間隔についてR&Aが取り上げた10分間隔を例示していたが、採用コースは少なかつた。またJGAはプレー形式としてマッチプレーなどを推奨したところだったが、⑤従来同様のストローク方式が83・7%と圧倒的でクラブ競技でも使用されているはずの①プレー全般でマッチプレー5・4%、②倶楽部内コンペ・競技でマッチプレー4・3%、新しいルールブックにも紹介されていた③最大スコアと④ステープルフォード方式はともに3・3%で、同じコースが複数選択したケースが多かつた。

最大スコア、ステープルフォードともストローク方式だが、ホールアウトしなくとも競技が成立するのでマッチプレー同様、プレー時間が短くなるとしてJGAが推奨したもの。ただ日本ではワングリップOKは認めても打数、スコアにこだわるのでコロナ拡大期であつても変えられないようだ。

新型コロナウイルス感染症対策については6月号でアンケートを実施し、ガイドラインに共通する対策は半数以上が実施していたので、今回

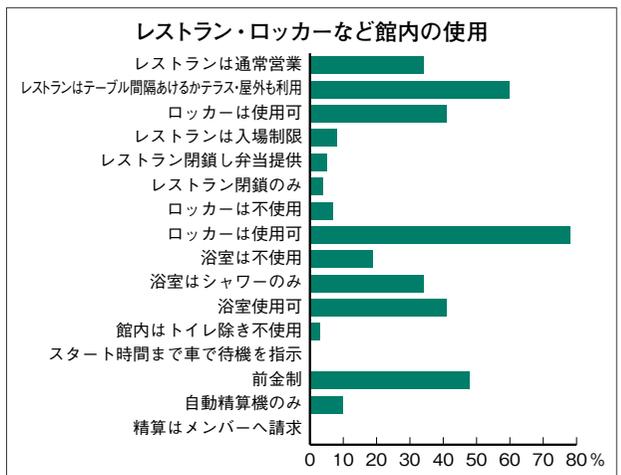


はまだ少なかつた回答がどれだけ増えたか、尋ねてきた。

まず政府の専門家会議でも指摘された館内、ロッカーなどについて尋ねた。

⑧ロッカーは使用可が78・8%、⑨レストランはテーブル間隔をあけるかテラス・屋外も利用が60・6%の過半数で実施、⑭前金制48・5%、⑧ロッカーは使用可と⑩浴室使用可が41・4%、⑩浴室はシャワーのみ34・3%など引き続き館内の対策に留意していることがわかる。

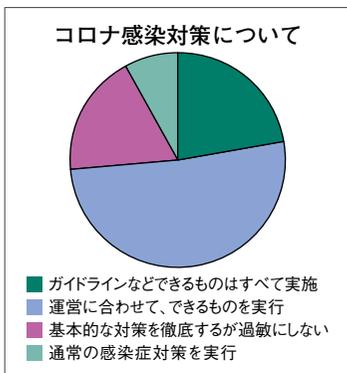
コロナ感染対策についての考え方について尋ねると、②運営に合わせた、できるものを実行が51・



5%で過半数、①ガイドラインなどできるものはすべて実施も22・3%、③基本的な対策を徹底するが過敏にしないは18・4%、④通常の感染症対策を實行7・8%で、対策を実施していないゴルフ場は1つもなかつた。

そこで、どこまで実施しているのか気になったので、前回少なかつた対策も加えて質問すると、①館内でのマスク使用が87・9%あり、一部従業員に限るとの回答もあつたが、プレーヤーにもマスク

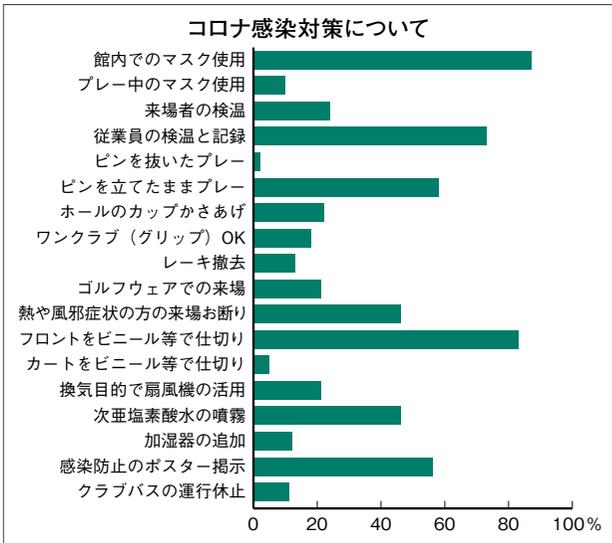
イフを取り戻していただきたい」と伝えた。ゴルフア向けポスターの準備も進めているようだ。



着用をかなり推奨していることがわかる。前回、過半数に達しなかつた⑫フロントをビニール等で仕切りは83・8%の高率に跳ね上がった。④従業員の検温と記録は73・7%で少し増えた程度だが、⑥ピンを立てたままプレー58・6%、⑰感染防止のポスター掲示56・6%も目立つた。JGAは5月30日に「ゴルフを愛する皆様へ」と題してゴルフの大原則はエチケット、マナー等として感染対策を守った上で、ゴルフ

なお、感染予防対策で次亜塩素酸水の噴霧が前月よりだいぶ増えたが、厚生省などから注意喚起がなされたので、使っている方は確認が必要のようだ。

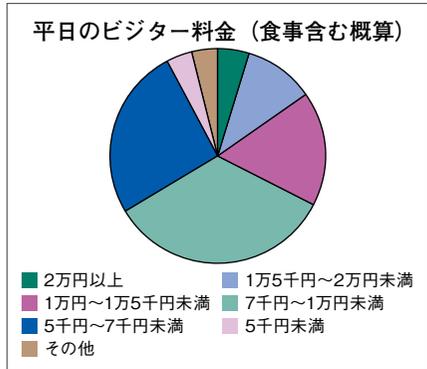
アンケートに回答いただいたゴルフ場の平日ビジタープレー料金（食事・税込みの概算）は、④7千円〜1万円未満が33・7%で一番多く、⑤5千円〜7千円未満26・0%、③1万円〜1万5千円未満17・3%、②1万5千円〜2万円未満10・6%などで周辺ゴルフ場



地域毎の特徴をまとめると、①北海道は全コースがスループレーを採用し、コロナ対策は比較的しっかり。②東北では一部レストラン閉鎖が少し多い。コロナ対策は多いこともあるが多様性があり、

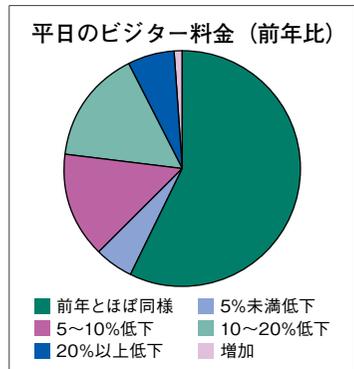
ほぼ同様が57・3%で過半数であったが、④10〜20%低下15・6%、③5〜10%低下14・6%などスループレーを増やしたことや周辺ゴルフ場の低額化に影響を受けているものと見られる。

の相場からすると、やや高額のところが多くなっている。その料金の前年比較では①前年とほぼ同様が57・3%で過半数であったが、④10〜20%低下15・6%、③5〜10%低下14・6%などスループレーを増やしたことや周辺ゴルフ場の低額化に影響を受けているものと見られる。



限らない。⑧九州・沖縄は組数制

掲載します。最後にコメントをできるかぎり



回答コメント

- ・これらのゴルフスタイルを取り上げてコラムを連載して頂きたいと思えます。
- ・コロナ対策のため、電子版媒体を充実して欲しい。
- ・これからも様々な情報をご提出いただけることを期待しております。
- ・透明性、公平性を継続して欲しい
- ・情報あれば随時発信してください。
- ・コロナ禍によるゴルフ場経営への影響が大きいのは九州を中心とする韓国企業系列のゴルフ場と本州等からの旅行者が多く利用している北海道のゴルフ場だろうと思います。コロナが落ち着いたところで特集企画をお願いします。
- ・ゴルフの健全性を、対外的に大きくアピールして頂きたい
- ・引き続き情報を宜しく願います。
- ・毎回興味深く拝読しております。
- ・緊急事態宣言中と解除後のゴルフ場入場者数の変化を知りたいと思えます。
- ・今後も情報の収集・共有を宜しくお願い致します。
- ・ゴルフ業界のみならず経済の根幹を揺るがす非常事態のなか情報共有は生き残りに有効と思えますのでよろしく願います。
- ・顧客のニーズが変化しているはずなので、ゴルフ場利用者のアンケートをお願いしたい
- ・いつも有益な情報を届けていただきありがとうございます。
- ・業界発展のため皆で知恵を出し合いましょう。
- ・ゴルフ場業界に今後懸念される影響についてのまとめ、対策といったものの特集を出して欲しい
- ・今後10年かけて起こるはずだったゴルフ業界の変化が、良くも悪くも新型コロナウイルスの影響によって一気に押し寄せる可能性があると考えています。新型コロナウイルスによる直接的な影響（来場者数減など）よりも、日本経済の厳しい落ち込みによる影響の方がより厳しいものになるだろうと予想しています。
- ・非常に役に立ちました。ありがとうございます。WEBでのアンケートで回答しやすいです。
- ・コロナを機に、ゴルフ場様の運営スタイルも変わって行くものと考えます。今後に向けて、スループレー化や前精算等の動向がどの様な状況か気になるところです。
- ・タイムリーなアンケートありがとうございます。未知な世界に向かって皆さまと一緒に向かえるのは頼もしいです。
- ・色々ご相談したい限りです！IT化については、色々ご助言できると思います。
- ・これからの仕事の流儀が変わっていくと思う。
- ・ようやく本来のゴルフのスループレーが日本で広がるチャンス